



TITLE:

讀者欄：寄書歡迎

AUTHOR(S):

---

CITATION:

讀者欄：寄書歡迎. 天界 1935, 15(167): 195-196

ISSUE DATE:

1935-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166972>

RIGHT:

# 讀者欄 寄書

## 天文と音楽

東京 押田 勇雄

一寸見ると意味のない標題のやうだが仲々さうではない。と云はれれば誰でも先づ思ひ出すのは天王星を發見したハッセル Sir William Herschel (1738—1822) であらう。彼はドイツに生れ初め音楽を以て身を立て、1757年イギリスに渡つてからもずつと音楽の教授をして飯を食つてゐたさうだ。天文學に志したのは専ら父の感化によるらしく、誠に鮮かな轉向ぶりである。

イタリイのガリレイ Galileo Galilei (1564—1642) の場合は之と反對で父が音楽家で、ガリレイ自身も音楽の才があつたさうである。

又純粹の天文學者とば云へないかも知れぬがアインスタイン Albert Einstein (1879—) は小さい時分から大の音楽ファンで、バイオリンもやればピアノも弾くし、就中古典音楽が好きだと言ふ。尤もプランク Max Planck (1858—) などは音楽家にならうとさへした。

音楽家と天文學の關係もなかなかお安くはない。1893年に彗星を發見した米國の素人天文家ロルダム Alfred Rordame (1862—1932) はノルウェーの生れであるが、20歳の時渡米してソルト・レークに住み交響樂の演奏に携つてゐたが、或日演奏會の歸り偶然肉眼で發見したのが有名なロルダム彗星である。

樂聖ベートーヴェン Beethoven (1770—1827) の歿後彼の全部の手記、書籍及び家具類が競賣に付せられたが、彼が音楽の書物以外に何を讀んで居たかを調べるのは興味ある事である。面白いことには彼の數冊を出でないこの種類の本の中で天文に關するものが二つある。即ちカントの「博物學及び天體論」Naturgeschichte und Theorie des Himmels 及びボイデの「星空の知識入門」Anleitung zur Kenntnis gestirnten Himmels である。

標題に天體をとり入れた音楽はあまり例が無いやうだ。「Planet」といふ題の組曲があるさうだが筆者未だ聴く機會を持たない。

こゝで思ひ出すのだが紀元前400年頃の人フィロラオス Philolaos の世界觀である。彼はコペルニクスに先立つこと實に二千年、既に地動説を唱へた先覺者である。彼によればすべての天體は宇宙の中心にある「中央火」のまはり

を各自の天球に附いたまゝ廻轉してゐる。各天球はその運動によつて音を發し、その「中央火から」の距離やその速度が、各調和的な數關係に従つて次第せられ、合して一つの調和した樂音を奏する。けれども我々の耳は固よりこの音樂を聴くことが出來ないのであると。この説は勿論單なる臆測にすぎないが極く最近になつて J・B・ペンニストーン氏は波動説より導いたボーデ法則に類似の法則を發來して曰く「音の波動スペクトル線の配置、結晶の配列等の類似現象の數學的處理は、惑星のみならず衛星にも同様の距離法則を與へる。」と。これで圖らずもフィロラオス君千載の後に思はぬ知己を得たわけである。

まだ星座神話とか手近な所を漁ればいくらもあるだらうが脱線しないうちに止める。(終)

交響管絃樂 “Planet” (遊星) について：—— 押田氏が天體に因める音樂について書かれてゐるのを筆者は非常に興味を持つて讀んだ事でしたが、文中「惑星」について寸言せられてゐますので、面白いと思つて少し蛇足を付けておきます。

この曲は現在英國樂壇の逸材 G. T. Holst の作で1915~16年に書かれたものであつて、下の七つの音詩から成る大管絃樂で組曲になつてゐます。

1. 火 星……………戦 争 の 神 (Mars, the Bringer of War.)
2. 金 星……………平 和 の 神 (Venus, the Bringer of Peace.)
3. 水 星……………翼のある使神 (Mercury, the Winged Messenger.)
4. 木 星……………愉 樂 の 神 (Jupiter, the Bringer of Jollity.)
5. 土 星……………老 年 の 神 (Saturn, the Bringer of Old Age.)
6. 天王星……………魔 術 師 (Uranus, the Magician.)
7. 海王星……………神 祕 (Neptune, the Mystic.)

ホルストが「これらの曲は Planet に關して傳はる占星の聯想から着想されたものであつて、従つて「遊星」の標題の音樂ではなく、又ローマ神話に因んだものでもない」と云つて居る如く、神祕な宇宙や天體の音樂ではなく、様々な感情の支配力を描いたもので、歐州大戰中に受けた強い感銘を表現したものだと言はれてゐる。目下「火星」だけが輸入されてゐるが筆者も實は早く聴きたく思つてゐる、今日の作曲なれば當然ブルートが冥府の王として追加されるであらうに。——或る解説より——

(T・T・生)